令和７年度第２回木津川市立学校給食センター運営委員会会議録（会議要旨）

日　　時　　令和７年１０月３１日（金）午後１時～午後２時５分
場　　所　　木津川市役所　第二北別館　２階会議室
出 席 者　　運営委員　３０名
　　竹本教育長、平井教育部長、東村次長（学校教育課長）、事務局５名

１　開　　会

２　教育長　あいさつ
　竹本教育長　あいさつ

【資格審査】
（事務局）
・運営委員会規則第６条第３項「運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。」と規定されており、４４名中３０名の出席があり会議が成立していることを報告。

３　議長選出
・運営委員会規則第６条第２項により梅美台小学校長の磯谷会長が就任。

４　議　事
（１）　令和８年度の給食費について
事務局東村次長が資料に基づき下記項目を説明する。

・学校給食センター運営委員会と給食費
運営委員会規則第２条で「学校給食に要する物資調達及び経理に関する事項」「給食費に関する事項」が審議する事項と定められている。今回審議いただく事項は「給食費に関する事項」、また、給食センター条例第９条において、給食費は月額とし、教育

委員会が決定するとされている。

給食費の徴収に関して、第１０条で給食費の負担責任者は保護者とし、給食費を負担していただいている。なお、令和８年度の物価高騰対応補助金については、市議会に提案し、議決を経て最終決定となる。

・給食のしくみ

学校給食法第１１条で給食の提供に係る経費で、人件費、建物維持管理費、二つある給食センターの修繕費等、調理等設備機器の維持管理費、メンテナンス費用、光熱水費、その他費用は木津川市が負担をしている。一方、給食の食材は保護者に負担していただいている給食費と市の補助金を合わせて購入しており、行政と保護者で協力しながら、給食を提供している。

・給食費改定の必要性

本市の給食費は、平成２６年度に改定以来１２年間据え置きとし、近年の物価高騰による食材費が高騰している中、学校給食摂取基準に定める栄養価を満たす給食を提供するため、令和４年度の２学期から物価高騰対応補助金を市から補填している。
これまで、献立の見直し、食材の変更、果物やデザートの提供回数を減らすなど、工夫を凝らしながら提供している。しかしながら、食材の価格高騰は今後も継続する見込みで、これ以上の給食費を据え置いた場合、必要な栄養基準の維持も困難となる。
この状況を受け、必要な栄養価を確保しつつ充実した学校給食を提供していくためには、給食費の改定はやむを得ないと考えている。

・物価上昇に対する取組・工夫

品数について、給食センターで提供できるのは一汁二菜となっている。魚料理も提供したいが、比較的安価な丼ぶりの頻度を多くして対応している。パンについて、比較的安価なコッペパンの回数を増やして対応している。

・学校給食に関するアンケートについて

今年の６月９日から２３日の１５日間、保護者の皆様にご協力いただいた。アンケートについては１５日間、オンラインまたは回答用紙で行ったが、すべてオンラインの回答となった。対象件数は、児童、生徒、園児の人数７，７５６件で、回答は３，２２０件、回答率は４１．５２％であった。

・主食について

味と量について、全体の６１％が「おいしい」と答え、内訳は、幼稚園が７６％、小学校が６６％、中学校が５２％であった。量については、全体の７３％の方が「ちょうどよい」と答え、幼稚園が９０％、小学校７５％、中学校６８％だった。

様々な意見をいただいた。例えば、「ご飯もパンもいろいろな種類のものがあり、家ではできないものも多いのでありがたい。」「地産地消の促進ということで、米・小麦は国産物を使用していただきたい。」「安全でおいしい食材を使ってほしい。」「米は地元産なので安心できる。備蓄米は使わないでほしい。」「価格の据え置きは厳しいと考えるが自己負担額の増加に耐えることにも限度がある。」「最低限の必要な栄養素等の基準を満たせば、多少の質の低下は仕方がないと考える。」というような意見があった。

・副食について

副食について、「おいしい」または「普通」と答えていただいたのが９４％だった。量については、６４％が「ちょうどよい」との答えだった。品数については、６３％が「ちょうどよい」、３５％が「少ない」という答えとなっている。

様々な意見をいただいた。「家では食べない、出てこないものが給食で食べられるので、旬の野菜で工夫していただけるのは嬉しい。」「給食だと野菜も食べるので野菜を増やしてほしい。」「給食で野菜嫌いが治ってきている。」というようなありがたい意見をいただいた。また、「郷土料理はこどもたちに美味しいと思えるものが少ない。」「ご当地メニューは食べ慣れていないので食が進まない。」といった意見もあった。

・牛乳・果物等のデザート類について

牛乳・果物等のデザート類について、３６％が「ちょうどいい」、６３％が「少ない」という回答で、多くの方が少ないと思っている結果となった。少ないと感じる割合については、学年が上がるにつれ、割合も高くなっている。

デザート類に関する意見としては、「たまに出していただいた方が特別感があり楽しみにしている。」「内容、回数ともちょうどいいと思う。」「デザートはそんなにいらないと思う。」「デザートについては現状の頻度で十分。」という意見もあったが、「デザートを増やしてほしい。」、「回数が他の市町と比べて少ない。」「楽しみが奪われたようで本人たちは悲しんでいる。」といった意見も多くあった。その他、

「牛乳はなくてもよい。」という意見もあった。

・学校給食費物価高騰対応補助金について

９４％の方が「今後も補助金を出してほしい」と回答している。令和４年度２学期から対応しているが、物価高騰によって補助金も増額してきている。今まで市が支出してきた補助額の総額は、令和４年度約２，２００万円、令和５年度約４，９００万円、令和６年度約５，８００万円となっている。令和７年度については、予算額として約６，６００万円であるが、この額では不足する見込みで、増額していかないと厳しい状況となっている。

意見として、「物価の値上がりで生活が苦しいのは子育て世帯だけではないので、補助がなくなってしまっても、文句は言えない。」「給食は自己負担でかまわない。」「本来、給食費は払うことが当たり前だったので、親がこどものために負担するのは当たり前だと思う。」「保護者の方でもそれ相当の対応をしていかないと、学校給食自体が立ちいかなくなっていくと思う。」「子育て支援を謳っているのに、補助金をなくすことは考えられない。」「全国的に無償化が進んでいる中で値上げは反対」という意見もあった。

・給食費の値上げについて（１）

「値上げをしても良いので質を高めメニューの幅をふやして欲しい」が４２％。「物価が高騰している現状を踏まえると、値上げもやむを得ない」が５０％ということで、全体の９２％が一定の理解を示している。

・給食費の値上げについて（２）

値上げ額について、小学校については、「６５円」、「５５円」、「４５円」の選択項目を提示し、その中で２番目の「５５円」が一番多い回答となった。中学校で、「７５円」、「６５円」、「５５円」という選択項目を提示し、「５５円」が最も多い回答となった。幼稚園については、「４５円」、「３５円」、「２５円」という選択項目を提示し、「３５円」が最も多かった。

その他少数意見として、小学校では「１００円の値上げも構わない」というような意見が５６件もあった。

給食全般にわたる意見としては、「学校から帰ると給食が美味しかったと話してくれます。」「出汁から料理している家庭はほとんどありません。木津川市のような

給食はこどもに絶対必要です。」という意見。また、「こどもたちが大きくなった時、小学校の給食は美味しく、楽しい思い出になって欲しいと心から願います。」という意見もあった。一方、アレルギーで給食が食べられなくて、お弁当持参しているお子さんの保護者からの意見として、「毎日の弁当にかかる食費は当然上がっており、元々給食と同じ費用で作るのはかなり難しく、上昇率は給食の値上げどころではありません。」、「これ以上市が負担するのは不公平だ。」との意見もあった。「補助金で賄うのが難しいのであれば、家庭に費用の負担を求める前に国に働きかけて欲しい。」「給食を廃止して弁当持参でもよい。」との意見もあった。

・１食あたりの食材費の推移

１食あたりの食材費について、令和７年度は小学校２８１円となっているが、令和６年度中の物価上昇等を踏まえて求めた額で、実際には給食の時によって献立も変わるので、必要な原材料によって１食あたりの食材費は日々変動している。

・食材費の推移－米価格の推移と価格上昇の影響

市の学校給食で使用している米は、ほとんどを京都府学校給食会から購入している。地元でとれた山城産ヒノヒカリを使用している。令和７年産米については、まだ正式な価格の提示はされていないが、５キロ当たり１，２００円以上、1キロ２４０円以上の値上がりになる見込みという通知が来ている。米の値上がりが大きくなると、副食に回す財源をさらに減らさざるを得なくなってしまう。

それ以外の食材費については、直近の令和７年度の２学期の食材の仕入額は、令和６年度の２学期と比較すると１．１２倍となり、１２％の上昇となる。

・令和８年度給食費の試算

令和８年度の１食あたりの食材費は、この２年間で物価高騰の影響を受けながら提供した５種類の献立で試算を行った。小学校、中学校、幼稚園の平均を求めると、小学校２８８円、中学校３４４円、幼稚園１８５円となる。これに対し、直近の物価上昇率１．１２を掛けると、小学校３２４円、中学校３８７円、幼稚園２０８円となる。

さらに、アンケートでは「デザートが少ない」という意見が多かったので、１食当たり小学校３３２円、中学校３９５円、幼稚園２１６円を来年度の１食当たりにかかる食材費とする。

・令和８年度給食費（案）

令和８年度の給食費の案について、まず、市の補助がない場合で求めると、８年度の１食あたりの食材費に年間の給食見込回数を乗じると、小学校で月額５，７００円、中学校６，４００円、幼稚園２，０００円となる。市の補助金が無い場合は、この金額となる。

教育委員会としては、子育て世帯の経済的支援策の一環として、補助金を来年度も継続していきたいと考えている。

令和８年度の市補助は、公平性の観点から、小学校、中学校、幼稚園、いずれも１５％程度の補助となるよう設定し、１食当たり小学校で４７円、中学校で６０円、幼稚園で３１円を案としている。

改定後の保護者負担は、アンケートの結果を踏まえ、１食当たり小学校で２８５円、月額４，９００円、中学校で３３５円、月額５，５００円、幼稚園で１８５円、月額１，７００円となる。

なお、提示している補助金額の案については、令和８年度予算のことなので、市議会での承認後、本決まりとなる。本日、示している補助金額、保護者負担額は変更になる可能性もあることはご了承いただきたい。

・給食費をめぐる動き

令和７年２月２５日に、「自由民主党」、「公明党」、「日本維新の会」の合意文書に給食無償化について盛り込まれた。これを受け、市としても全国市長会、京都府を通じて、無償化の実現に向けて要望活動を行っている。

・安心安全な学校給食を提供するために

市としては、今後も地場産農産物や旬の食材を使用した安心・安全で、年間行事にちなんで、楽しく、かつ、学校給食法で定める栄養摂取基準を満たす給食を安定的に提供し、こどもたちの成長を支えていくための取組みを進めていく。

【質疑】

あり　　質疑等は別添参照

【採決】

賛成多数により、議事（１）「令和８年度の給食費について」は承認される。

６　閉　　会

（別添）

【質疑等】

（委員）

今日、この提案について、最後どのようにまとめることになるのか。また、過去１２年間で給食費を据え置きした理由は何だったのか。

（事務局）

提案した給食費の改定について、審査、意見をいただいた上で、教育委員会に諮る。

大きく反対されるような意見等があれば、その意見を踏まえて見直すということも当然していく。説明が不十分なところがあったら、再度提案していくということになる。

消費者物価指数の動きを見ると、令和４年のウクライナの紛争あたりから急激に物価指数が上がっている。それまでは、デフレということもあり、給食の食材も安定した価格で推移していたので、１２年間、給食費据え置きで給食を提供することができた。令和４年になり２月から物価が跳ね上がるという状況になり、２学期から補助金を活用しながらの運営となっている。

（委員）

この物価高騰において給食費の値上げは十分すぎるほど、理にかなっていると思う。こどもたちにも喜んで欲しいし、調理されている方たちにも、心苦しい思いをしないで調理していただきたいと思うので、私は賛成する。

（委員）

先ほど説明の中で、市の補助額は確定ではないと話があった。これが満額でないとか、補助金がない場合はどのような対応を考えているのか。

（事務局）

給食費の補助は、市の子育て世代の経済的支援としての大きな役割を果たしていると考えているので、予算の確保に努めていきたい。

【試食会】　１２時００分～１２時５０分

参加人数：１８人（教育部長、学校教育課長含む）

配膳員：給食栄養士、栄養教諭、栄養講師２名

献立：別紙

学校の試食会の説明時に使用する資料（パワーポイント）で、「木津川市学校給食概要」及び「学校給食の目標」並びに「調理」から「配送」までを解説した。（栄養教諭）

全般：１６人の参加。昨年も献立を「おしながき」（別紙参照）として紙ベースで配付した。また、配膳の場面で日常の児童、生徒がトレーをもって、並んで配膳される方法を採用した。全体的な感想としては、献立内容、味付け、彩り、分量それぞれにおいて好評だった。